

なきごえ



1966

6

大阪市
天王寺動物園

「エミュー」

走鳥目 エミュー科

空を飛ばなくなった鳥類の一群に走鳥目があります。これらはいずれも健脚揃いです。

今回はこの中のエミューを紹介したいと思います。

エミューは、だちょうより更に翼は退化して外見からは全く翼は見受けられません。走るのに適した大きな肢と胴体に長い首の上には「角ガリ」した様な頭に扁平な嘴を付けています。もっとも鳥類の翼は空を飛んで移動する役目のもので、食物を食べるときには何の役目も果たしていないのですから時速50kmの強脚がある限り何ら不自由はないでしょう。

昔はオーストラリア全域にわたって生息していたのですが今では東部オーストラリアに限られています。高さは1.7mとありますから、アフリカに棲むだちょうに次



ぐ大型の走鳥類です。食べものは雑食ですが、主に草食で果実、草葉、根菜などを食べます。動物園では甘藷、バナナ、リンゴ、パン、卵、ミカンなどを与えています。なかでもブドウを最も喜ぶようです。

当園のエミューは昭和11年8月に入園したもので、在園30年、動物園に収容されている動物の仲間での最古参で今尚元気しております。この鳥の寿命は40年ですから(推定年令35才)大変な老人です。このエミューが入園して、初めてお目に掛った当時のよい子達は今では恐らく40才位になっておられ御家庭のよい子達の良きパパ、ママさんになっておられることでしょう。ちよっと昭和11年以来の入園者を調べて見ますと

37,259,849人という数字が出ました。これは日本の総人口の約半分ということになります。これ程皆さんに貢献した動物はないと思います。

多くの鳥類の中には変った習性を持っているのがいます。日本に棲むたましぎ、ヒレアとき、は雌の色彩は普通の鳥と反対で雄より美しいばかりでなく、その習性迄あべこべです。巣を造ること、又卵を暖めるのは全部雄の役目です。このことを性の倒錯と呼びます。このエミューは雄雌は同色ですが、卵を抱くのは雄の役目です。シーズンが来ると雄は卵を催促するかのように入り込んで50日間程全く餌も取りません。

鳥類の中で育児に対して雄雌逆の役割を果す。地上最大の鳥それはエミューと言うこととなります。昭和35~6年頃までは時々坐り込みを見せていましたが最近では老令のせい、その動作も見せなくなりました。

(松岡恵爾)

表紙の写真説明

チンパンジーのキャンデーちゃんがステージでテーブルマナーの演技をしているところです。

セキセイインコの飼い方

この鳥は、オーストラリア南部が原産地で、原種の青色、黄色、水色、その他オリーブ、コバルト、バイオレット、ホワイトなどの色がある美しい鳥で、暑さや寒さにも強いので、誰にでも飼われ、古くから親しまれている鳥です。

飼育箱は、なるべく大きなものを用い、巣引きのためには、禽舎を造ってやれば結構です。禽舎は1.8m四方のもので高さも1.8m位、底には砂を敷き、へやの半分を小屋に、半分を運動場にこの部分のみを三方金網を張っておきます。(下記図参照)

インコ類は巣を選ぶ習性が強いので一番に対して2個の割合で、小屋の上方にしっかりととりつけ一度選んだ巣箱は引き続き利用するので、動かしたり取除いたりしないよう。インコ類は巣の材料はいりません。

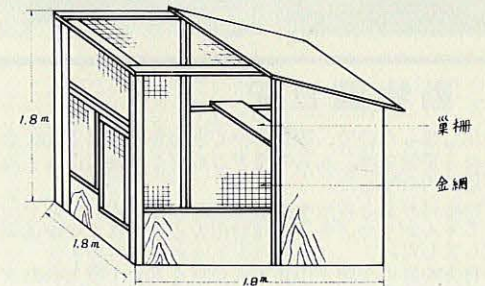
運動場には止り木を入れてやり、又植木にするのも一法です。インコの餌入れは小判型の容器か浅い木箱でもよろしい。給水器も入れ、こうして出来ると飼料として、ひえ4、きび3、あわ2の割合で、青菜、ボレー(イカの甲)も与えて下さい。その他えごま、なたね、落花生、麻の実も準備し、体力の維持及び発情飼料として与えますが、脂肪過多にならないよう注意しましょう。発情期を迎えると、おすの嘴の根元の蠟膜が鮮やかな青色になり、めすでは褐色を呈してくるので仲の良い同志と一緒にしてやるとやがて交尾して1日おき位に、6卵位産み、22~23日位でひながかえりますが、抱卵中は鳥を驚ろかしたり、巣箱に触れたりしないで下さい。生まれたひなは30



日位すると、親と同じ羽衣になるので、育雛用として麻の実、えごま位与えておきます。ひなはなるべく長く親につけておくのがよいのですが、次の産卵にかかると20日間位が適当で、その後は別の籠にわけてやって下さい。

日常よく愛鳥の動作を観察し、朝早く動作の異常を見分けるよう心掛け、眼の光沢の有無、羽毛の逆立や、ふくらんでいる時とか、呼吸するごとに体がゆれたり、一隅にとどまって頭を羽毛の中につっ込んでいたり、肛門部の羽毛が汚れているもの、クシャミをするものは注意し、これらの鳥は日光の当たる暖かい静かな場所に移し、栄養のある餌(あわ卵)を与えてやります。病鳥だけを移すとかえって病気が進むこともあるので、元気な鳥一羽と一諸に入れてやると、安心して回復する場合もあります。

薬を飲ませるには、水薬はなるべくぬるま湯にし、1日3~4回位取り変えてやり、水にとけない薬は泥状にしたものを細い「へら」で口に入れてやって下さい。(米田敏光)



なきごえ 8月号 もくじ

動物の紹介 エミュー	2
飼い方シリーズ	3
動物園グラフ	4・5
ペットを訪ねて	6
動物園ニュース	7



↑きのぼりカンガルーの聴診



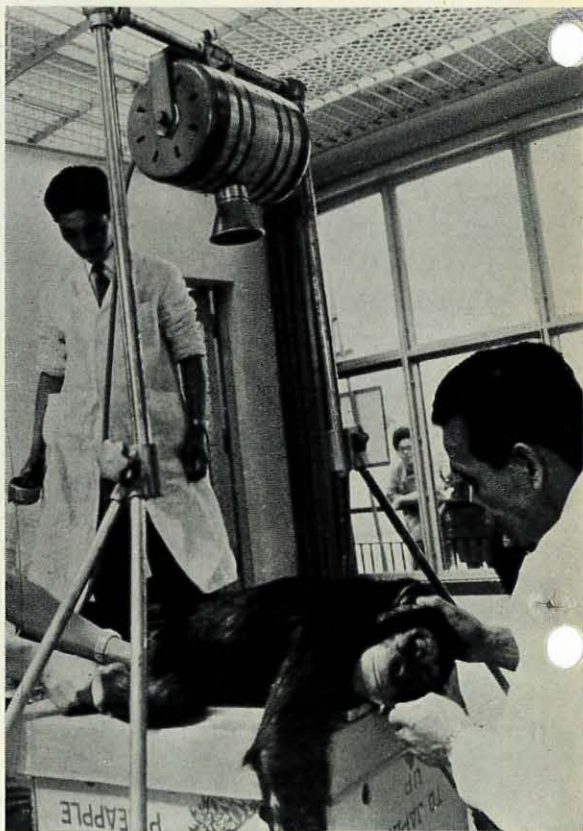
↑にしきへびに栄養剤の注射

↓感冒治療の吸入



動物園グラフ

うっとしい毎日が続く今日この頃 動物たちにとってもいやな季節です。
病気の動物たちの治療はどのように行なわれるのでしょうか。
ここにその一部を写真によって御紹介しましょう。



↑結核予防のレントゲン検診



↑チンパンジーへの投薬



↑アルマジロにぬり薬の塗布



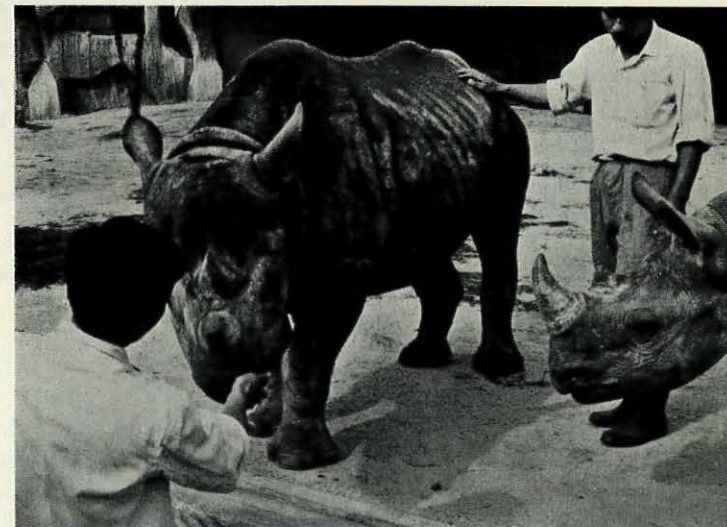
↑治療を受ける、くろざるの赤ちゃん



←きじの病氣予防



↑ぶちハイエナの治療



↑くろさいへの投薬

5月 動物園日記

- ① きりんが交尾しましたので、順調にいくと来年の7月下旬に赤ちゃんが生まれる予定です。からやまどりなど7種76点のきじの卵を電気ふ卵器に入れました。
- ④ 大きな「こいのぼり」とポールの贈呈式があり、チンパンジーのキャンデイちゃんがロープをカーぱい引くと青空にこいが元気いっぱい泳ぎ出しました。
- ⑤ 第17回象の目方を計る会が、中馬大阪市長を迎えて行なわれました。春子さんは3,510kg、ユリ子さんは2,790kgありました。
- ⑦ しろたぬきが両後肢が麻痺して立てなくなり、長らく治療を続け

- ⑧ ていまして死亡しました。ヨーロッパこうのとりひなは5羽めがふ化しました。これだけ多くふ化したのは今度が初めてです。さいのおすとめすの身体各部の計測を行ないました。しろたぬき1頭が寄附されました。
- ⑨ てながざるのめすが流産してしまいました。長らく下痢が続いていたさいのおすは、治療と餌の調理や配合の改善の結果、ぐんぐん良くなりました。
- ⑩ この日からパードウィークに入りましたが、ヨーロッパこうのとりひなを市民の皆さんに披露しました。
- ⑫ 暖かくなったので、にしきへび、わに舎の暖房を止めました。
- ⑬ くろざる1頭の寄附がありました。あじかが死産しました。

- ⑭ 赤色ジャコビン4羽が寄附されました。リカオンが仲間同志けんかをして大けがをしましたが、治療の結果よくなりました。
- ⑯ みずおとかけが死にました。
- ⑰ 日本鹿の赤ちゃんが今シーズン始めて生まれましたが、授乳させず死亡しました。
- ⑱ チンパンジーのキャンデイちゃんや、新入園のチンパンジーなどの胸のレントゲン検診を行ない、結核の早期発見につとめています。ヨーロッパこうのとりひな5羽のうち1羽が死にましたが残り4羽は元気に育っています。
- ⑳ アメリカアリゲーター2匹が寄附されました。㉑この3月に全快

- ㉒して元気な姿を見せていたエミューのめすが、寄る年なみに衰えが激しいので、卵や牛乳などの強制給餌をはじめました。
- ㉓くろざるの赤ちゃんが生まれました。
- ㉔ぶちハイエナが仲間にひどく咬みつかれ、首筋や、肩の皮がなくなるほどの重傷を負いました。早速治療檻に移して手当をしています。
- ㉕わたぼうしきぬざるが急激な冷え込みからか、食欲不振となって元気がなくなってしまいました。
- ㉖各1頭の日本鹿が生まれました。
- ㉗この春入園したチンパンジーに、かわいい名前をつけて下さいと良い子の皆さんに愛称募集を行なっていますが、その中からこの日パンジーちゃんという名前にきまり、命名式を行ないました。

虫のおばさん

吹田市千里山109

桜井まささん

閉静な千里山の住宅街を散策していると、アレ!! と耳を疑う季節外れのズムシの合唱に、思わず足が止ります。それもその筈、ここは虫のおばさん桜井まささんのお宅です。

最近都市周辺は驚くばかりの開発が進み、よほどの郊外に出ないと虫の声が聞けなくなっている今日この頃、一体これはどうしたことなのでしょう。桜井さんのお宅を訪ねてその秘密をお伺いしました。

3年前に他界せられたご主人の桜井敏夫様が、小さい時からの大の虫好きで、検察庁のご繁務の余暇には、大和川の堤、生駒山にとご夫妻で虫の音を訪ね、又これを採取して飼育されることが唯一の楽しみであったそうです。ついには初秋の季節が待ちきれず、人工ふ化を試みられたのがみごとに成功して今日の虫の楽園となったわけです。

- アサスズ は あじさいの葉
- アオマツ は 桃の木に
- マツムシ は 麦わらの茎の中に
- カネタタキ は 泥の中
- クツワムシ、ズムシ は 砂の中

にそれぞれ産卵させることに成功しておられます。季節より早く虫を鳴かせるには、越冬させた卵を2月頃から温室に入れてふ化に着手しなければなりません。



自然ふ化は50日で親になるそうですが、人工の場合は70日かかるそうです。温室の温度は25°C以上が必要とか。これらのことを進めるには先づ虫に産卵させねばなりません。

それには虫の産卵に適した植物の鉢植を造ることで。この植木鉢を金網の繁殖箱の中に入れて、その中に10~20匹の♂、♀の虫を入れるのですが、交尾直前に入れると斗争による損毛が多いので、早目に同居させて親和を計るようにすることが肝心。卵を産み付けた木が枯れるようなことがあると、卵も死んでしまうとのこと。又クツワムシ、ズムシの場合の砂も2年連続に使っては成績が悪いそうです。

計画的に次々にふ化させた幼虫の餌付ですが、これにはキウリ、ナス、小鳥の摺り餌、アジの焼物などを使っておられます。ふ化した若虫には隠れ場所が必要なので木片、古木などを入れてやることを忘れずに、特に湿度は絶対に欠かせないのでよく箱を見て、霧吹きで水をかけてやることと付け加えられました。

虫のほかに飼育されているのは、メジロ、手乗り文鳥、手乗り雀に熱帯魚などです。対談中お庭に犬が寝そべっていても野生のキジバトが訪ねて来るといふ、誠にうらやましい環境でした。

ご主人が虫を採取しておられるアルバムなどを拝見していましたら、南極探検で有名な白瀬中尉が、明治44年2月ケープタウンから祖父桜井熊太郎さんにあてられた写真や書翰が沢山ありましたのには驚きました。虫とは無関係のようですが、桜井家の一面をご紹介するために特に記します。

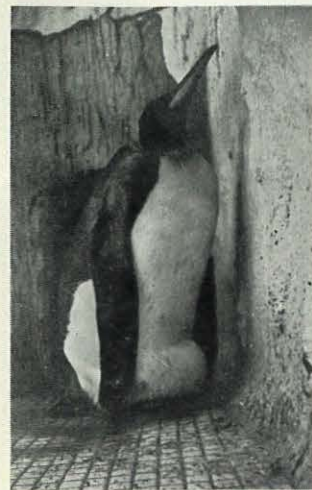
派手な動物でなく、静かな動物を友として楽しんでおられるところに、桜井家の風格がにじみ出ているように感じました。

私は桜井まささんの虫の音に包まれてのご生活が、いついつまでも続くことを祈りながら、おいとましました。(松岡恵爾)



キングペンギン卵を産む!

6月1日の朝、冷房ペンギン舎(室内温度14°C~17°C)で1個産卵しました。ガチョウの卵ぐらいの大きさです。当園では初めて。日本でもペンギンが産卵することは大変珍らしく、長崎水族館、上野動物園にその例があるだけです。



係員は有精卵であってくれと願っております。「南極の紳士」も大変恐妻家で、めすが産卵すると「ハイごろうさん」とばかりおすが卵を足の上に乗せて暖ため、約60日間でかえすのが普通ですが、あらぬことか当園のペンギン旦那、「キング」がそんなみっともないことできない「関白」ぶり

日本に来て感化されたのかも知れません。現在めすが抱卵しています。うまくいけば8月に「うぶ声」が聞けるかもね!

ペンギンは南極地方にだけ住むと思われがちですが、赤道近くのガラパゴス群島付近にも分布します。そして約17種類を有しますが北半球には住んでおりません。一般的に暖かい地方に分布しているもの程小さく、南極地方に住む皇帝ペンギンなどでは約1m位もあります。好物は小魚、イカ、甲殻類などです。当園では1日1羽あたりアジ1kgを与えています。飛ぶ力はありませんが翼は魚のヒレの役目を果して素早く泳ぎます。泳ぐ姿をみて船員がマグロと間違うこともあるそうです。

大型のキングペンギン、皇帝ペンギンは1産1卵です。

初夏の風物詩 めん羊の毛刈り

真夏を間近かにひかえ、6月3日朝めん羊(10頭)の毛刈りを行いました。いつもはえさをくれる飼育係のおじさんが麦わら帽子に電気バリカン片手の「散髪屋」に早変わりしたので、めん羊君もはじめのうちはこわがっていましたが終わりにには1年ぶりの散髪にすっかり気持ちよさそうにしていました。2時間後にはみるからにむさくるしかっためん羊さんも全員「夏モード」。1頭から背広1着分の原毛(約3kg)がとれ、刈取った原毛は1kg約300円で売却されます。めん羊にはコリデールとメリノールの二種あり、日本で飼育されているのはほとんどコリデール種です。

非常におとなしくて、何かの敵におびえ、しかも別の所に逃げる余裕のないときは、群の中へ中へと逃げこみ、



そのため群はだんだん小さくなり、真中のものが押し殺されることがあります。又、毛だけでなく「羊頭をかかかって狗肉を売る」のことわざ、つまり羊肉だといってしわい犬肉を売ったといわれるように羊肉はやわらかく美味です。

ニューフェイス(チンパンジー)のペットネーム決まる

この3月に、西アフリカのモンバサからはるばると船でやって来たチンパンジーの赤ちゃん(めす生後1年)の愛称が「パンジー」ちゃんとなりました。



春の動物園まつり(5月)に、入園者のみなさんから募集し、14,565票の応募票のなかから選んだものです。

5月に咲く「三色すみれ」からヒントをえたのでしょうか。パンジーちゃんと言った人が368名もありそのうちから抽選で松原市芝町62-3四ツ井田保美(3才)さんほか9名の方を招待して5月29日に命名式を行い記念品を贈りました。

「パンジーちゃん」は、これから竹馬乗り、トンボ返り、食事マナーなどいろいろの芸を覚え、動物園のスターとして皆様の人気を呼ぶものと思います。この秋ごろには初舞台をふむ予定です。応援に来てやって下さい。

